

特集

野生鳥獣と私たち

身近に潜む野生

年々増加しているように感じる野生鳥獣による被害。実は調査を開始した平成11(1999)年以降、平成22(2010)年度をピークに農作物への被害額は減少しています。ではなぜ増加しているように感じるのでしょうか。今回の特集では、その理由を解き明かし、それによる影響や対策を考えていきたいと思います。

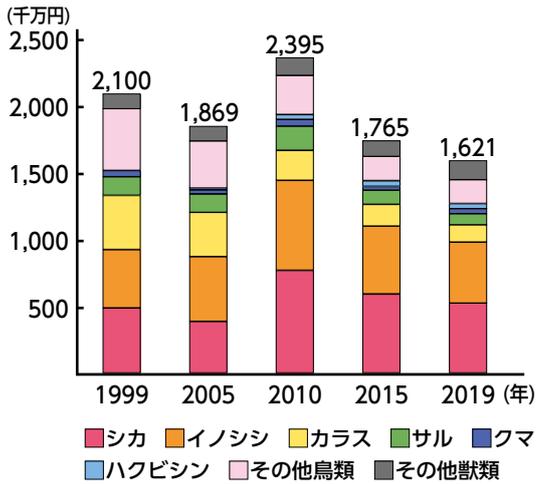
人の前に姿を見せる

理由をひもとく

本来であれば野生鳥獣は人間におびえ、危険を感じて人里を避けるはずですが、しかし実際には、さまざまな野生鳥獣が私たちの生活圏内で、私たちの前に姿を現しています。理由は簡単。「おいしい餌」と「隠れ場所」が豊富にあるから。そして、人間が怖い存在ではなくなっていることも理由の一つです。

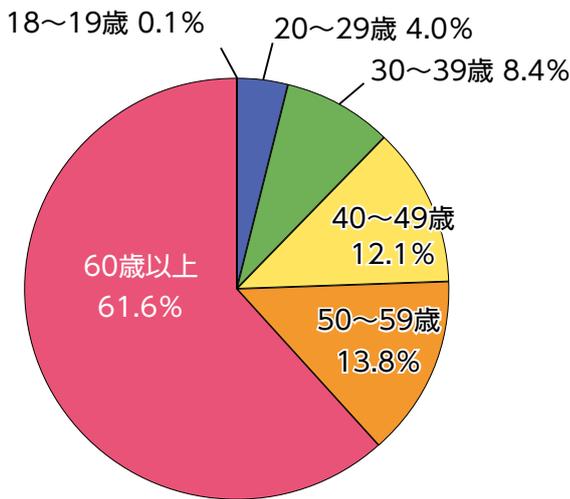
▶ 問い合わせ
本農林整備課 ☎0287(62)7148

農作物への被害額の推移(全国)



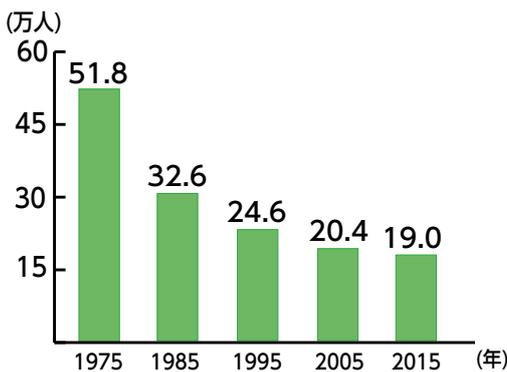
(出典：農林水産省「野生鳥獣による被害状況の推移」)

狩猟免許所持者の年齢割合(全国)



(出典：環境省「平成29年度鳥獣統計情報」)

狩猟免許所持者数の推移(全国)



(出典：環境省「平成29年度鳥獣統計情報」)

代表的な野生鳥獣



サル



イノシシ



クマ



ハクビシン



シカ



カラス

「おいしい餌」とは——
 私たちが考えるおいしい餌と、野生鳥獣たちにとってのおいしい餌は少し違います。農作物はもちろん私たち人間から見てもおいしいものです。しかし、人間が魅力を感じないようなものでも、野生鳥獣にとっては「おいしい餌」になってしまうのです。生ごみや収穫せずに木に実ったままの柿や栗、家庭菜園で収穫したあとの野菜くずなどもその例です。そして、そうしたおいしい餌は、食べても人間に怒られることがありません。人間が「被害」と感じないようなものが大量にある人里は、野生鳥獣にとっては格好の餌場となります。

「隠れ場所」とは——
 野生鳥獣たちが「安全」と感じるのが、やぶや長く伸びた草が生い茂った場所です。普段は山林で生活している野生鳥獣は、茂みを伝って隠れながら人里に移動して来ます。特に、農地に隣接した耕作放棄地は絶好の隠れ場所かつ餌場になってしまいます。自分の所有する敷地を適正に管理し、野生鳥獣にとって魅力的な場所にする必要があります。

「人を恐れない野生鳥獣たち」——
 個人がばらばらに被害対策をしているような地域では、野生鳥獣たちは人間に対して恐れを感じなくなっています。追い払いを行うのは自分の農地が狙われたときや、売り物になる農作物を食べられたときだけ、自分に関係ないときは見て見ぬふり……。これでは野生鳥獣たちは「人間という種族」が怖いと学習しません。むしろ、「少し隠れてやり過ごせばおいしい餌が食べられる」ということを学んでしまいます。また、高齢化を背景として狩猟者が少なくなっていることも、被害を加速させる原因の一つです。